

本製品はJEITAコードカラーに対応しています。

車への取り付けは、必ずこの取付説明書と別冊の「安全上のご注意」に従って正しく行ってください。指定以外の取り付け方法や指定以外の部品を使用すると、事故やケガの原因となる場合があります。この場合は、当社では一切の責任を負いかねます。

販売店様へ

接続、取り付け作業が完了しましたら、この取付説明書はお客様へお渡しく下さい。

別売製品の接続および取り付けについては、別売製品に付属の説明書も合わせてご覧ください。



PRINTED WITH
SOY INK

この説明書の印刷には、植物性大豆油インキを使用しています。

パイオニア株式会社

〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

この説明書は、再生紙を使用しています。

© パイオニア株式会社 2003

< KAMZF/02C00000 > < CRA3516-A >

作業の進めかた

① はじめに

接続・取り付け部品を確認する — 2ページ
製品の配置例 — 4ページ

② 接続のしかた

接続の前に知ってほしいこと — 5ページ
接続端子のなまえと働き — 7ページ
システムの接続 — 8ページ
「ND-B5」, 「ND-ETC3」
電源コードの接続 (1) — 10ページ
電源コードの接続 (2) — 12ページ
VTR・リアモニター・バックカメラ・
サブウーファアの接続 — 14ページ
5.1ch DSPユニットの接続 — 15ページ
VICS/FM多重放送の受信について — 16ページ

③ 取り付けかた

取り付けの前に知ってほしいこと — 17ページ
ナビゲーション本体の取り付け — 18ページ
GPSアンテナの取り付け — 20ページ
音声認識コントローラーの
取り付け — 22ページ
マイクの取り付け — 25ページ
TVアンテナの取り付け — 26ページ

④ 接続・取り付けが終わったら

接続の確認を行う — 36ページ
入出力の設定を行う — 38ページ
入出力の設定を行う
(5.1ch DSPユニット接続時) — 39ページ
オートアンテナの動作確認を行う — 40ページ
センサー学習のエラーメッセージ — 41ページ

接続・取り付けが終わったら、必ず接続の確認～オートアンテナの動作確認 (36～40ページ) を行ってください。

接続・取り付け部品を確認する

ナビゲーション本体関係



ナビゲーション本体
× 1



トラスネジ
(5 × 6 mm) × 8



皿ネジ (5 × 6 mm)
× 8

GPSアンテナ関係



GPSアンテナ × 1



金属シート × 1



クランパー × 5

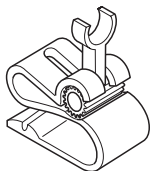


防水パッド × 1

マイク関係



マイク × 1



マイククリップ × 1



両面テープ
(20 × 16 mm) × 1

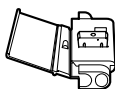


クランパー × 5

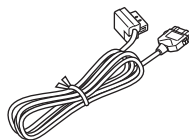
接続ケーブル関係



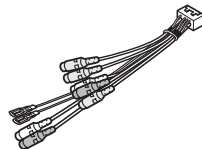
電源コード
× 1



UIエレメントコネクター
× 1



携帯電話接続
ケーブル × 1



RCA入出力
ケーブル × 1

音声認識コントローラー関係



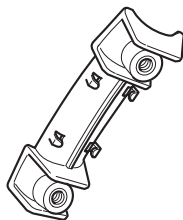
音声認識
コントローラー × 1



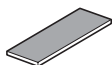
リチウム電池
(CR2032) × 1



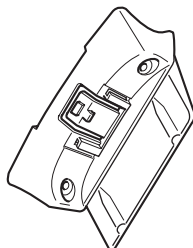
六角穴付きネジ
(3 × 6 mm) × 2



インナーホルダー
× 1



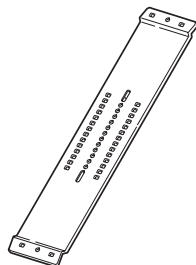
マジックテープ大
(やわらかい方) × 1



アウターホルダー
× 1



マジックテープ小
(かたい方) × 2

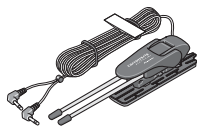


ベルト × 1

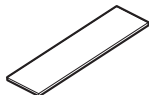


六角レンチ × 1

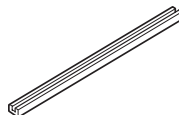
TVアンテナ関係



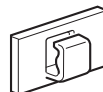
TVアンテナ
右用・左用 各1



塗装保護シート × 2



コードレール × 4



クランパー × 6



ガラスクリーナー剤
× 1



クロス × 1



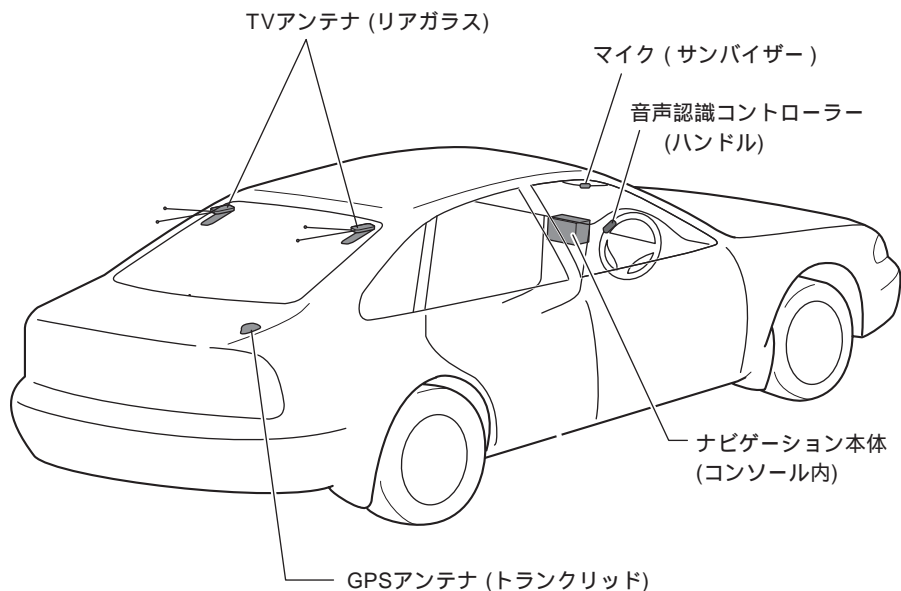
エレメント固定
ホルダー × 4



六角レンチ × 1

製品の配置例

下図は、本機の配置例です。
 実際は、組み合わせた製品とご自分のお車に合わせて、製品を配置してください。



メモ

配置場所や車種によっては、別売の延長ケーブルや取付キットが必要になることがあります。

本機と他のナビゲーションシステム (GPS受信機) を同時に使用すると、本機のGPS受信性能に悪影響が出る場合があります。同時に使用しないでください。

接続の前に知ってほしいこと

接続上のご注意

本機と他の製品では同じ働きのコードでも色が異なる場合があります。本機と他の製品とを接続される場合、それぞれの製品に付属の取付説明書をよくお読みになり、同じ働きのコードどうしを接続してください。

本機は、エンジンスイッチにACCポジションがない車では使用できません。絶対に取り付けしないでください。取り付けると、バッテリー上がりの原因になります。赤リード線(アクセサリ電源)は、常にバッテリーから電源が供給される電源回路には接続しないでください。接続すると車のバッテリーが消耗してしまいます。若草色リード線(パーキングブレーキスイッチ)は、必ずパーキングブレーキスイッチの電源側に接続してください。接続しない一部の機能が使用できなくなります。黒リード線(アース)は、パワーアンプなどの消費電流が大きい製品のアースとは別々に取り付けてください。まとめて取り付けると、ネジが緩んだり外れたりしたとき、製品の発煙・故障の原因となる恐れがあります。

必ず付属の部品を指定どおりに使用してください。指定以外の部品を使用すると故障などの恐れがあります。

本機のアンプにはBPTLという回路を使用しています。スピーカーのリード線を直接アースしたり、複数のスピーカーの(-)リード線を、共通にして接続しないでください。

本機と組み合わせるスピーカーには、最大入力50W以上のハイパワー用で、インピーダンスが4 から8 のものを使用してください。規格以外のスピーカーのご使用は、スピーカーの発火・発煙・破損の原因となります。

ガラスアンテナ車など、アンテナブースターの電源がある場合、必ず本機の青リード線(オートアンテナ)を車側のアンテナブースターの電源に接続してください。接続を忘れるとラジオやVICS/FM多重放送の受信ができません。

アンテナブースターの電源の位置は、車種によって異なります。詳しくは、取り付け技術のある販売店にご相談ください。

接続のポイント

ノイズ防止のために

ノイズ防止のため、次のものはナビゲーション本体や他のケーブル類、コード類からできるだけ離して配置してください。

- * TVアンテナおよびそのアンテナコード
- * FM/AMアンテナおよびそのアンテナコード
- * GPSアンテナおよびそのアンテナコード
- * ビーコン受信機およびそのアンテナコード

それぞれのアンテナコードどうしもできるだけ離してください。一緒に束ねたり、重ねたり、交差させたりしないでください。アンテナやアンテナコードにノイズが飛び込むと受信感度が悪くなります。

電源配線キットを別売しています

システム全体の消費電流が大きくなると、電圧が不足する場合があります。そのようなときは、バッテリーから直接電源をお取りください。当社では、電源配線キット「RD-221」を別売していますので、販売店にご相談ください。

cdmaOne™用ケーブルを別売しています

「cdmaOne™」携帯電話と組み合わせる場合は、cdmaOne™用ケーブル「CD-H12」(別売)を使用して接続してください。

接続の前に知ってほしいこと

つづき

ピンリード線の接続について

ピンリード線（車速信号入力）は、内蔵の3Dハイブリッドセンサー用のリード線です。必ず接続してください。

ピンリード線を接続しない場合は、簡易ハイブリッド方式で動作し、誤差が大きくなる場合があります。

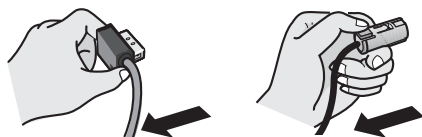
ピンリード線を車の車速検出回路に接続するのが困難な場合は、車速パルス発生機「ND-PG1」（別売）をお使いください。

コネクターの着脱のしかた

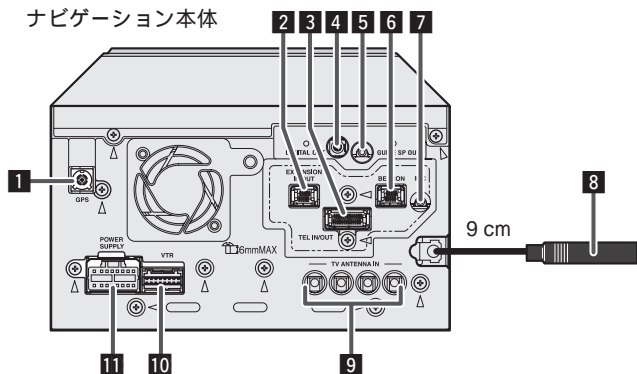
コネクタは、“カチッ”と音がするまで押し込んで、確実に接続してください。スムーズに入らない場合は、色が間違っている可能性がありますので、コネクタどしの色を確認してください。また、無理に挿入しないでください。故障の原因となる場合があります。

コネクタを外すときは、図のようにコネクタ部分を持ってロックを押しながら引っ張ってください。

コードを引っ張るとコードが抜けてしまうことがあります。



接続端子のなまえと働き



1 GPSアンテナ接続端子 (灰)

付属のGPSアンテナを接続します。

2 拡張入出力端子 (黒)

別売のアンテナ分離型ETCユニット「ND-ETC3」を接続することができます。

3 電話端子 (赤)

付属の携帯電話接続ケーブルを使用して、デジタル携帯電話を接続します。
cdmaOne™方式の携帯電話をお使いの場合は、別売のcdmaOne™用のケーブル「CD-H12」を使用します。

4 デジタル出力端子 (灰)

別売の光デジタル端子変換コネクタ「CD-DD25」を使用して、5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P7」を接続します。

5 ガイドスピーカー接続端子 (青)

本機と5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P7」を組み合わせた場合、ナビゲーションの音声案内を出力するために、別売のガイド音声用スピーカー「CD-TS36G」を接続します。

6 ビーコンユニット接続端子 (青)

別売のVICS用ビーコンユニット「ND-B5」を接続します。

7 マイク入力端子 (黒)

付属のマイクを接続します。

8 AM/FM/VICS/FM多重用アンテナ接続端子

車載のラジオのアンテナに接続します。

9 TVアンテナ接続端子

付属のTVアンテナを接続します。

10 映像・音声入出力端子 (VTR・バックカメラなど)

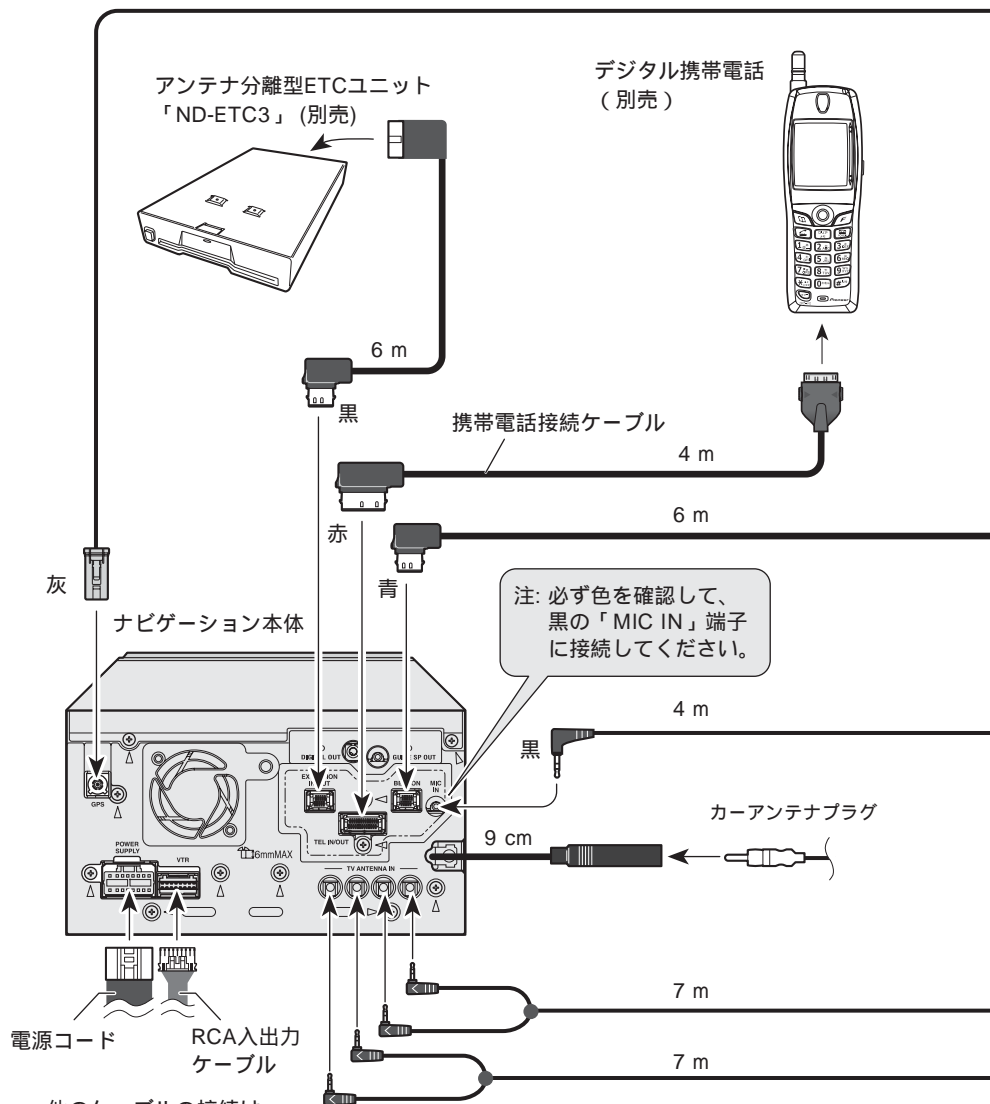
付属のRCA入出力ケーブルを接続します。
(14 ~ 15ページ)

11 電源

付属の電源コードを接続します。
(10 ~ 13ページ)

システムの接続

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください

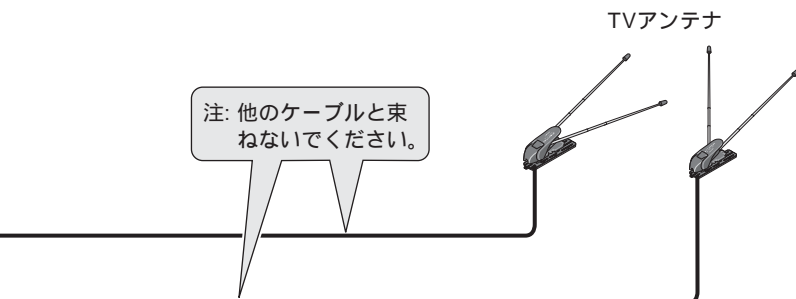
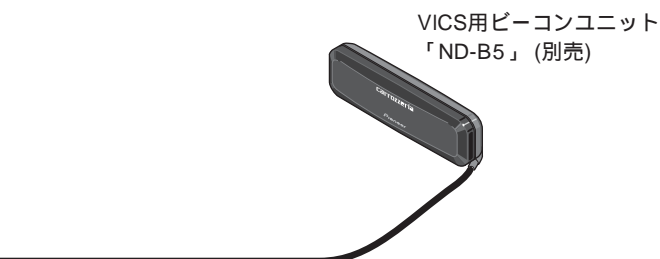


他のケーブルの接続は
(10 ~ 15 ページ)

「ND-B5」, 「ND-ETC3」と組み合わせた場合

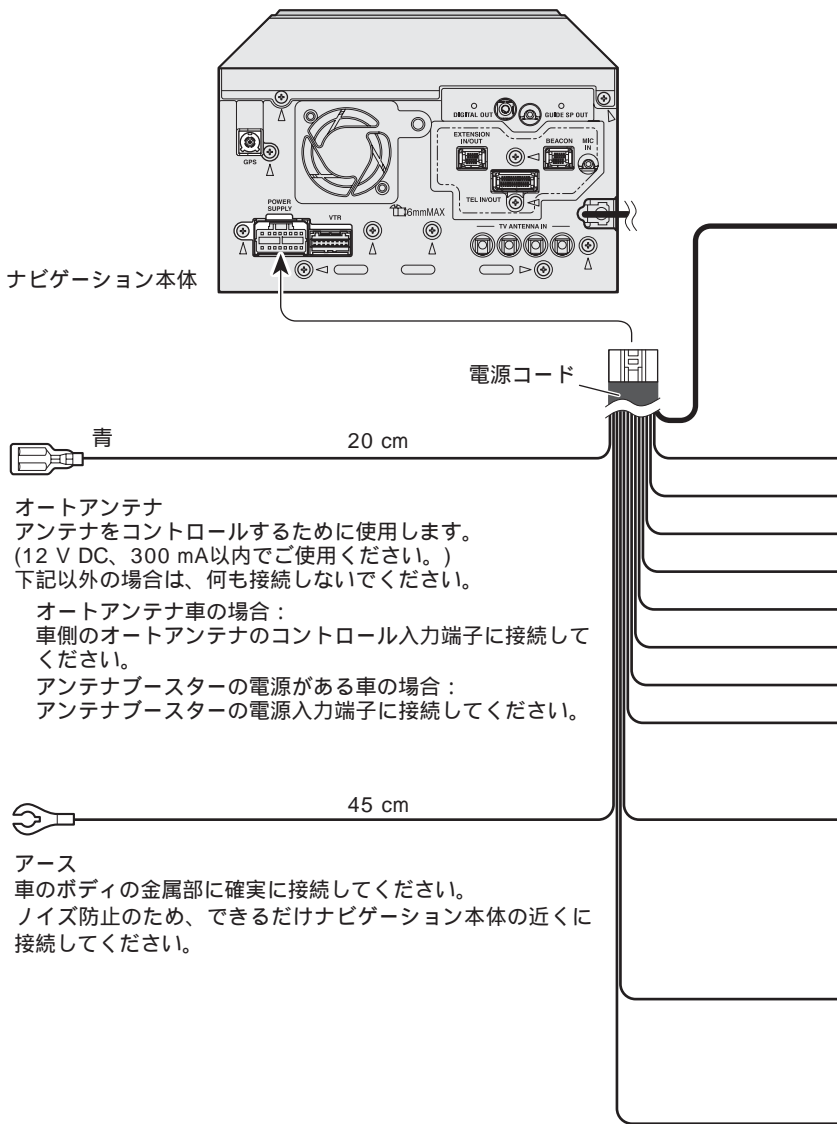


長さが足りないときは、別売の「RD-G33」(3 m延長)をお使いください。



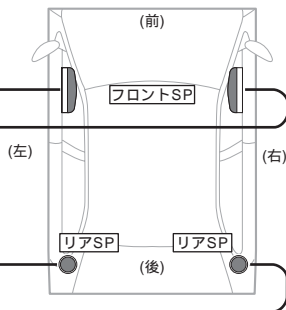
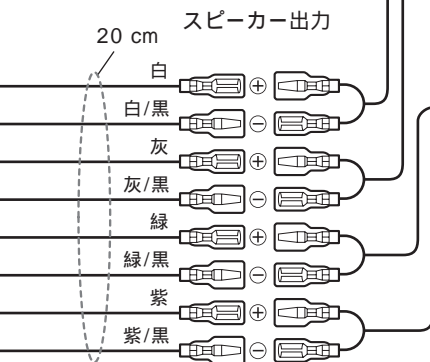
電源コードの接続 (1)

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください



注：スピーカーを接続しないスピーカーリード線には、何も接続しないでください。

他の電源ケーブルの接続は
(次ページ)

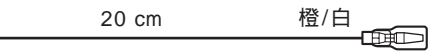


注：電源リード線の、ヒューズから本体の間に、他の機器のリード線を接続しないでください。



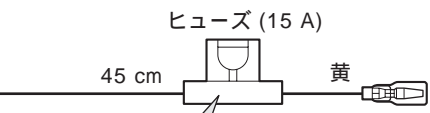
アクセサリ電源

車のエンジンスイッチをACCポジションにしたときに電源が供給される電源回路に接続してください。エンジンスイッチにACCポジションがない車には絶対に取り付けしないでください。バッテリー上がりの原因になります。



イルミ電源

車のライトをONにしたときに電源が供給される電源回路（時計の照明回路やスモールランプ回路など）に接続してください。



+バッテリー電源

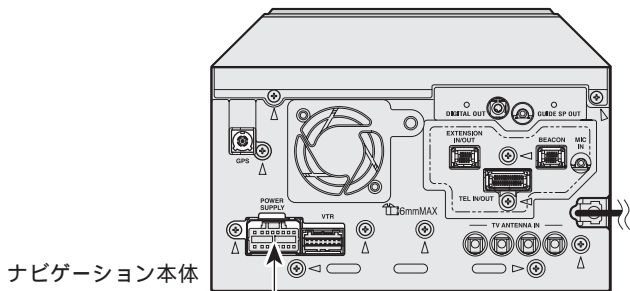
車のエンジンスイッチのON/OFFに関係なく、常にバッテリーから電源が供給される電源回路に接続してください。

注：ヒューズを交換するときは、必ず同じ容量のヒューズと交換してください。

注：赤、橙/白、黄リード線は車のヒューズユニットを通した後の端子に接続してください。

電源コードの接続 (2)

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください



ナビゲーション本体

電源コード

他の電源コードの接続は
(P. 前ページ)

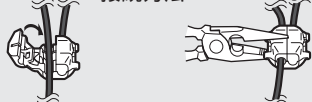
バック信号入力

この接続は車の前進/後退を判断するためのものです。バックランプのリード線の「シフトレバーをリバースの位置にしたときに電圧が変化するリード線」に接続してください。

接続しないと前進/後退を正しく検知できないことがあるため、自車位置がずれる場合があります。

バックカメラを利用する場合は必ず接続してください。接続しないとバックカメラ映像に切り替わりません。

接続方法



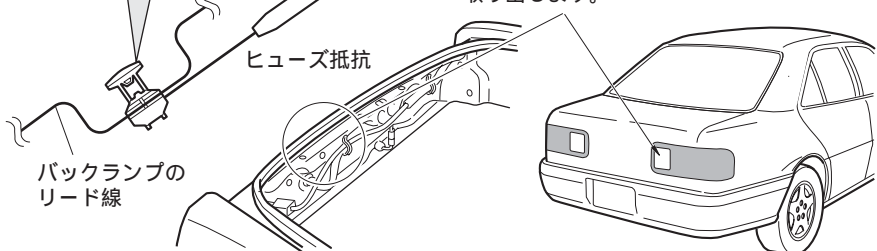
バックランプの
+側リード線を
はさみ込む。

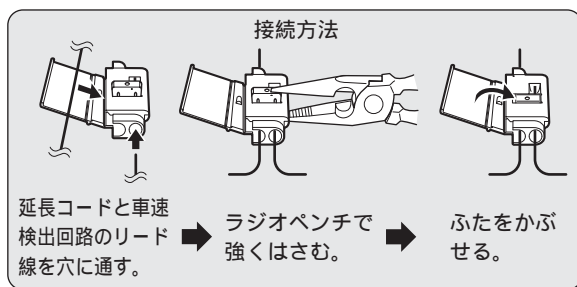
ラジオベンチで
強くはさむ。

紫/白
8 m

注：電源リード線の、ヒューズ抵抗から本体の間に、他の機器のリード線を接続しないでください。

バックランプ(シフトレバーがリバース[R]のときに点灯するランプ)の位置を確認し、トランク内から、バックランプのリード線を取り出します。





車のインジェクションコンピューター

車速検出回路のリード線

Uエレメントコネクター

注：必ず付属のUエレメントコネクターを使用してください。指定以外の物を使用すると接触不良の原因となります。

インジェクションコンピューターの車速検出回路の位置は、車種によって異なります。詳しくは、お買い上げの販売店にご相談ください。

ピンク 6 m

車速信号入力

車の走った距離を検出するために使用します。必ず車の車速検出回路に接続してください。(車の車速検出回路への接続が困難な場合は、車速パルス発生機「ND-PG1」(別売)を接続することもできます。)

パーキングブレーキスイッチ

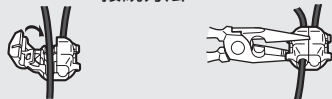
車が停車していることを確認するために使用します。必ずパーキングブレーキスイッチの+側リード線に接続してください。

若草色 2.1 m

パーキングブレーキスイッチ



接続方法



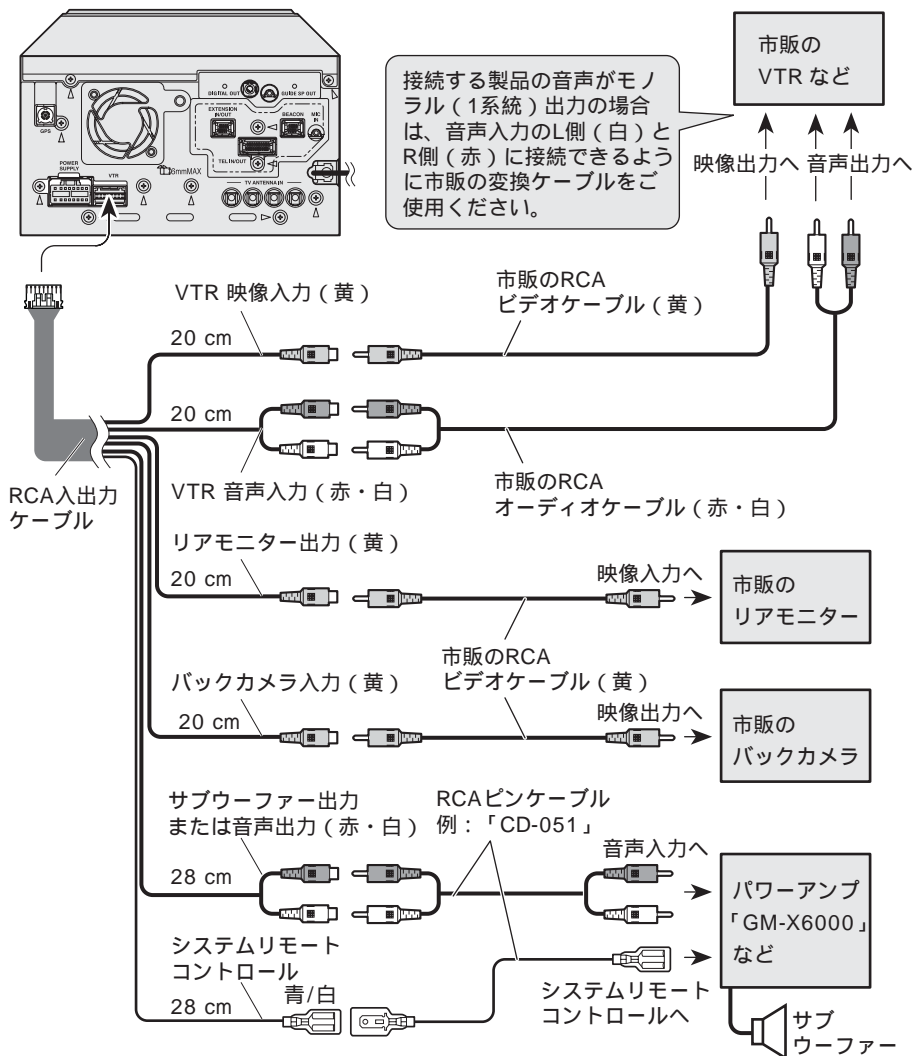
パーキングブレーキスイッチの+側リード線をはさみ込む。 → ラジオペンチで強くはさむ。

パーキングブレーキスイッチの位置は、車種によって異なります。詳しくはお買い上げの販売店にご相談ください。

VTR・リアモニター・バックカメラ・サブウーファーの接続

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください

本機には、市販のVTRや後席用リアモニター、バックカメラ、サブウーファーが接続できます。



メモ

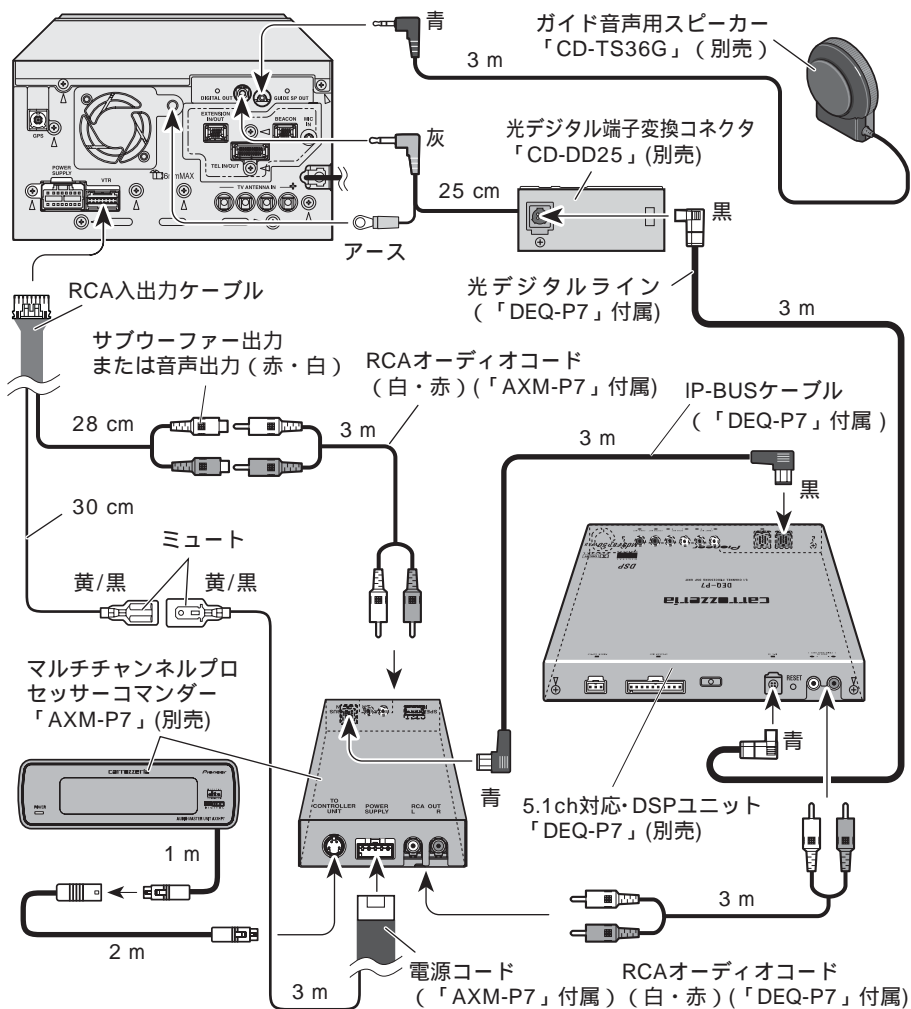
本機のVTR入力またはバックカメラ入力に外部機器を接続した場合は、入出力設定メニューで「VTR入力」または「バックカメラ入力」をONに設定する必要があります。（※38ページ）

接続するときは、本機および接続する製品の電源をOFFにしてから接続してください。接続する製品の端子の形状に合わせて、各種変換コードをお使いください。

5.1ch DSPユニットの接続

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください

本機には、5.1ch DSPユニットが接続できます。



接続のしかた

メモ

本機に5.1ch DSPユニットを接続した場合は、入出力設定メニューで「5.1ch DSPユニット」をONに設定する必要があります。(P.39ページ)

接続するときは、本機および接続する製品の電源をOFFにしてから接続してください。

マルチチャンネルプロセッサコマンダー「AXM-P7」および5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P7」との接続につきましては、それぞれに付属の説明書をご覧ください。

VICS/FM多重放送の受信について

詳しくはお買い上げの販売店にお問い合わせください

ご注意

車載のラジオのアンテナがガラスアンテナなどの場合は、VICS/FM多重放送の受信に十分な感度が得られないことがあります。その場合は、別売の車室外取付用AM/FMアンテナ(「AN-8」または「AN-5」など)を使用してください。

別売のTVダイバーシティ・FM多重フィルムアンテナ「AN-FL1」および別売の車室外取付用VICS/FM多重用アンテナ「AN-F10」および同梱のTVアンテナはAM放送の受信には適していませんので、本機のAM/FMアンテナ端子には接続しないでください。

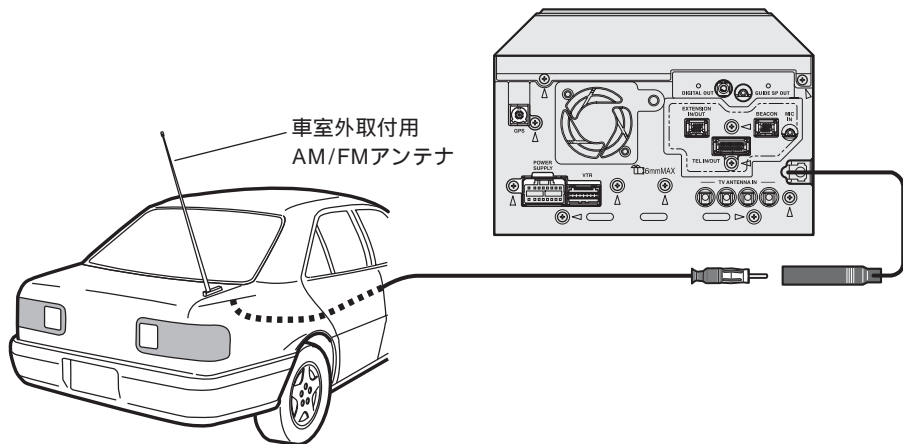
別売のTVアンテナ「AN-GT4」、「AN-G1」、「AN-G2」、「AN-G3」はAM放送およびVICS/FM多重放送の受信用としてはご使用になれません。

ガラスアンテナ車など、アンテナブースターの電源がある場合、必ず本機の青リード線(オートアンテナ)を車側のアンテナブースターの電源に接続してください。接続を忘れるとラジオやVICS/FM多重放送の受信ができません。

アンテナブースターの電源の位置は、車種によって異なります。詳しくは、取り付け技術のある販売店にご相談ください。

別売の車室外取付用AM/FMアンテナを使用する場合

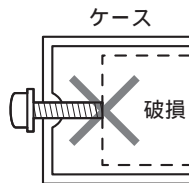
車載のラジオのアンテナでは、VICS/FM多重放送の受信がしにくい場合は、別売の車室外取付用AM/FMアンテナを使用します。



取り付けの前に知ってほしいこと

取り付け上のご注意

必ず本機および取付キットに付属の部品を指定通りに使用してください。指定以外の部品を使用すると、機器内部の部品をいためたり、しっかりと固定できずに外れたりして危険です。



取り付けのポイント

取り付け、固定する前に

まず仮接続を行い、本機が正常に動作することを確認してから、取り付けを行ってください。正常に動作しない場合は、接続を間違いないか、もう一度チェックしてください。

粘着テープを貼り付ける前に

マジックテープや両面テープを貼り付けるところは、汚れをよくふきとってください。

ノイズ防止のために

TVアンテナの取り付けのしかたによっては、ラジオ放送に雑音が入る場合があります。TVアンテナは、TVアンテナの取り付け (P.26 ページ) の説明に従って正しく取り付けてください。

ノイズ防止のため、次のものはナビゲーション本体や他のケーブル類、コード類からできるだけ離して配置してください。

- * TVアンテナおよびそのアンテナコード
- * FM/AMアンテナおよびそのアンテナコード
- * GPSアンテナおよびそのアンテナコード
- * ビーコン受信機およびそのアンテナコード

それぞれのアンテナコードどうしてもできるだけ離してください。一緒に束ねたり、重ねたり、交差させたりしないでください。アンテナやアンテナコードにノイズが飛び込むと受信感が悪くなります。

ナビゲーション本体の取り付け

つづき

ナビゲーション本体の取り付けについて

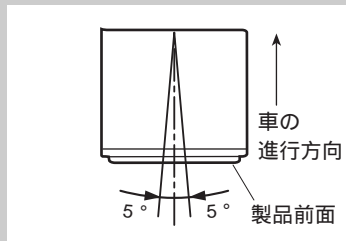
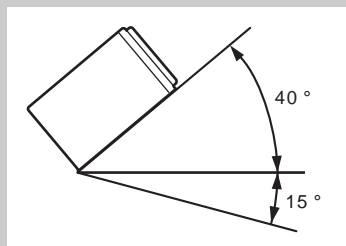
取付キットを別売しています

車種や年式によっては、別売のパイオニア取付キットを使用しないと、取り付けられないこともあります。当社では車種別専用取付キットを用意してありますので、販売店にご相談ください。

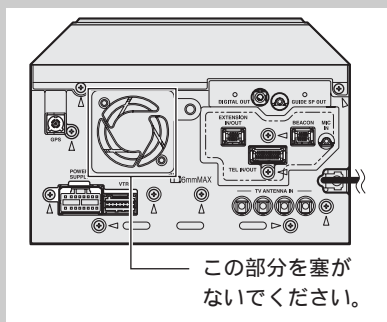
日産車に取り付ける場合、車種や年式によって別売の日産車用化粧パネル「ADT-N979」が必要になることがありますので、販売店にご相談ください。

取り付け上のご注意

本機の性能を十分に発揮するために、上下の傾きはできるだけ水平に取り付けてください。傾けて取り付ける場合は、水平に対して上の傾き40度以内、下の傾き15度以内の角度で取り付けてください。左右の傾きは車の進行方向に対して5度以内の角度で取り付けてください。

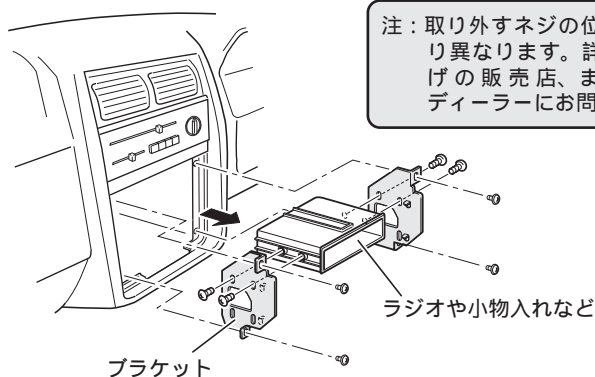


放熱を妨げないために、下図の部分を塞がないように配置してください。



1 車両のラジオ、小物入れなどを取り外す

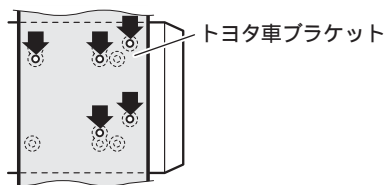
ラジオ、小物入れなどを取り外し、それらを止めているブラケットを取り外します。そのブラケットを使用して、本機を取り付けます。



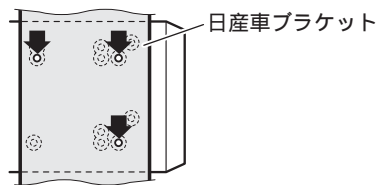
2 ネジ止めする位置を確認する

ブラケットを本機に重ねてネジ穴が合う位置を確認してください。次のネジ穴のうち4カ所 (または3カ所) 合う位置があります。

トヨタ車の場合

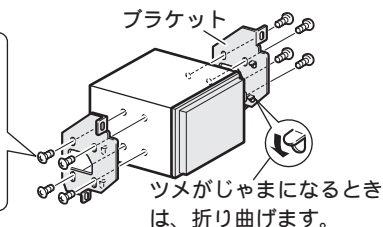


日産車の場合



3 ブラケットを付属のネジで取り付ける

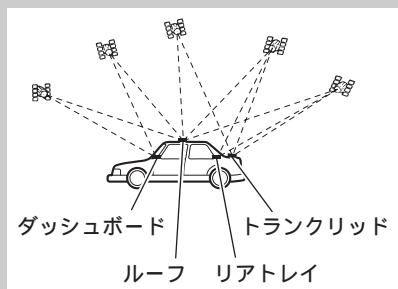
左側、右側、それぞれ4カ所 (または3カ所) ずつ、付属のネジでネジ止めて元通り車に取り付けます。



GPSアンテナの取り付け

取り付け上のご注意

GPSアンテナは、GPS衛星の電波が車のボディなどで遮られない場所に水平に取り付けてください。(どの方向からも電波が受信できるように、できるだけ車外のルーフやトランクリッドに取り付けてください。)



GPSアンテナを塗装しないでください。アンテナの性能が落ちる場合があります。
GPSアンテナを車内に取り付ける場合は、必ず付属の金属シートを使用してください。使用しないと、十分な受信感度が得られなくなります。

付属の金属シートは、切って小さくしないでください。十分な受信感度が得られなくなります。

GPSアンテナは、ナビゲーション本体から30cm以上離して設置してください。また、あまったGPSアンテナコードをまとめて置くときも、ナビゲーション本体から30cm以上離して置いてください。近くに設置すると、受信感度が低下してしまいます。

GPSアンテナを取り外すときは、アンテナコードを引っ張らないでください。アンテナに付いている磁石が強力なため、コードが抜けてしまうことがあります。

GPSアンテナは磁石で取り付けます。アンテナを車のボディに取り付ける場合は、ボディを傷つけないように慎重に取り付けてください。

GPSアンテナを車外に取り付けた場合、自動洗車機で洗車するときは、アンテナを取り外して車内に戻してください。アンテナが外れて車のボディを傷つけることがあります。

車内(ダッシュボードやリアトレイの上)に取り付ける場合

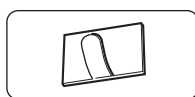
なるべく水平な場所、またはアンテナがウィンドの外に向く場所に金属シートを貼り付け、GPSアンテナを金属シートの上に置きます。(GPSアンテナの磁石で固定されます。)アンテナの取り付け位置は[接続状態]画面(37ページ)を参考に、十分に受信できる位置に取り付けてください。

金属シート
必ず使用してください。裏面の保護シートをはがして貼り付けます。

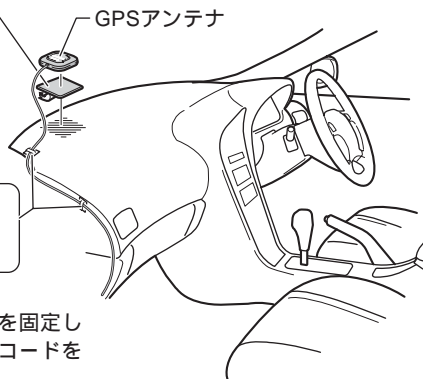
GPSアンテナ

メモ

車のウィンドガラスの一部に、GPS衛星の電波を通さないものがあります。GPSアンテナを車内に取り付けたときに、GPS衛星からの電波を受信しにくい場合は、一度アンテナを車外に取り付けてみてください。



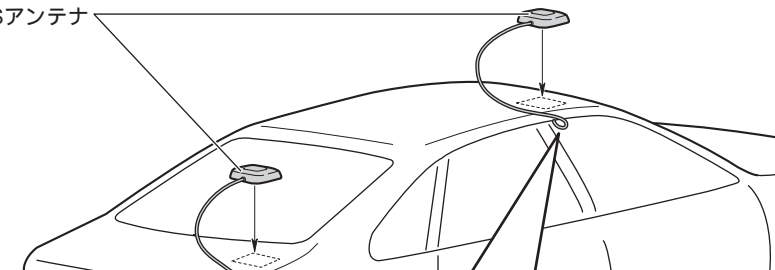
クランパー×5
クランパーで要所を固定しながら、アンテナコードを引き回します。



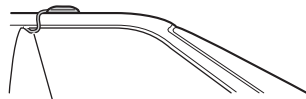
車外（車のボディ）に取り付ける場合

車のルーフやトランクリッドの、なるべく水平な場所にGPSアンテナを置きます。（GPSアンテナの磁石で固定されます。）

GPSアンテナ



アンテナコードをドアの上側から車内に引き込む場合

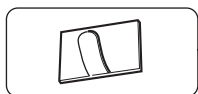


雨水がコードを伝わって車内へ入らないように、コードを外側でU字形に曲げます。



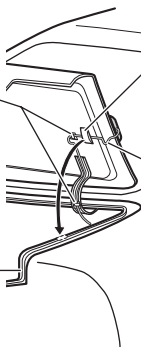
クランパー×5
クランパーで要所を固定しながら、アンテナコードを引き回します。

アンテナコードをトランク内に引き込む場合



クランパー×5
クランパーで要所を固定しながら、アンテナコードを引き回します。

ゴムパッキング



防水パッド
トランクを閉めたとき、ゴムパッキングの上に防水パッドが水平に当たるようにします。

雨水がコードを伝わって車内へ入らないように、コードをゴムパッキングの外側でU字形に曲げます。

音声認識コントローラーの取り付け

取り付け上のご注意

エアバックなどの車の安全装置が働いたときに、その動作の妨げになる場所には絶対に取り付けしないでください。

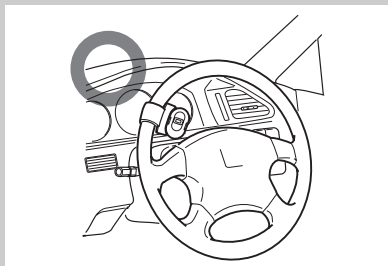
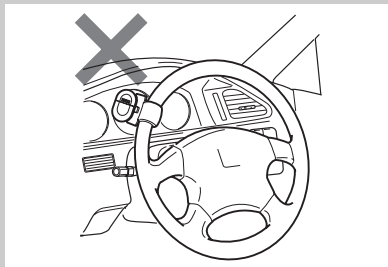
車のメーター類の、視認の妨げになる場所には取り付けしないでください。

取り付ける位置や向きによっては、音声認識コントローラーの信号がリモコン受光部にとどかない場合があります。固定する前に、取り付けの位置で、動作確認を行ってください。(動作しない場合は、コントローラーの上下や裏表を逆にしてみてください。それでも動作しない場合は、取り付け位置を変えてください。)

ハンドルに取り付けるときは、ハンドルの左または右側のリモコン受光部に近い方(右ハンドル車の場合はハンドルの左側、左ハンドル車の場合は右側)に取り付けてください。逆側に取り付けると、音声認識コントローラーの信号がリモコン受光部にとどかないため、動作しないことがあります。

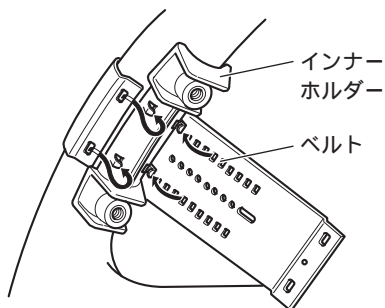
ハンドルに取り付けるときは、付属のベルトでしっかりと固定してください。しっかり固定しないと、運転操作の邪魔になり、交通事故の原因となります。

ハンドルに取り付けるときは、ハンドルの外側に取り付けしないでください。運転操作の邪魔になり、交通事故の原因となります。必ずハンドルの内側に取り付けてください。

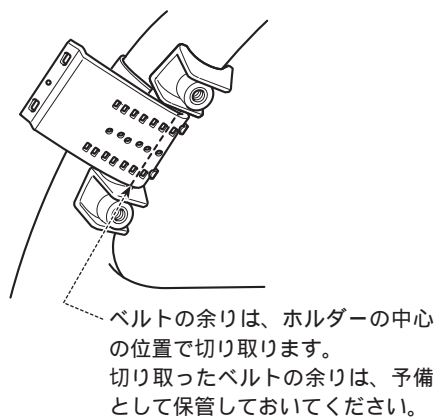


ハンドルに取り付ける場合

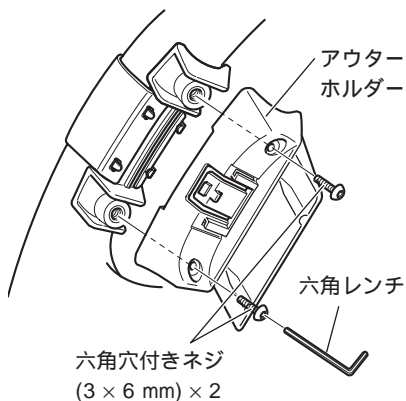
1 ハンドルにインナーホルダーを取り付ける



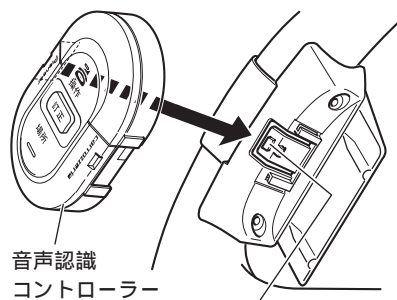
2 ベルトの余りを切り取る



3 インナーホルダーに OUTERホルダーを取り付ける



4 音声認識コントローラーを取り付ける



音声認識コントローラーを取り外すときは、ここを押しながら、音声認識コントローラーを手前にスライドさせます。

メモ

上図は右ハンドル車の例です。左ハンドル車に取り付ける場合は左右逆に取り付けてください。

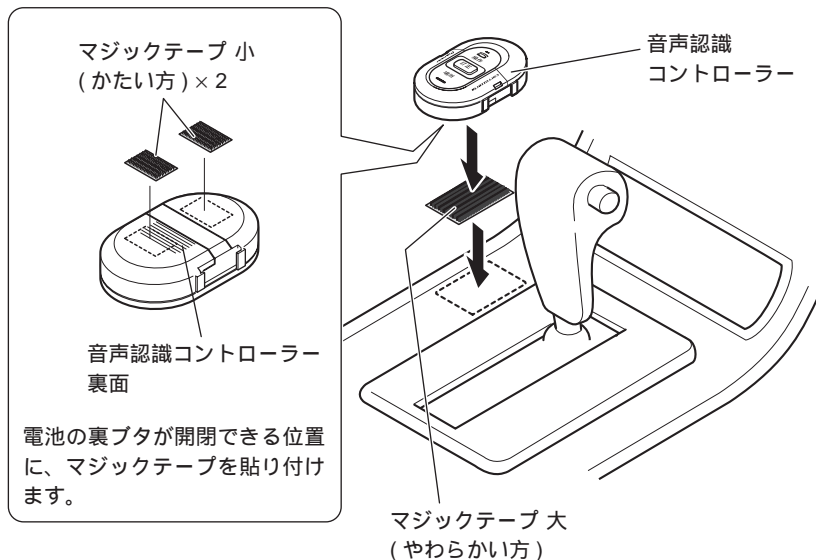
ハンドルの太さによっては、切り取ったベルトの余りが、使えない場合があります。

音声認識コントローラーの取り付け

つづき

マジックテープで取り付ける場合

付属のマジックテープ 小 (かたい方) を音声認識コントローラーの裏面に、マジックテープ 大 (やわらかい方) を取り付け場所に貼り付けます。



マイクの取り付け

取り付け上のご注意

音声操作時に明瞭な音質を得るために、マイクはできるだけドライバーの近くに取り付けてください。

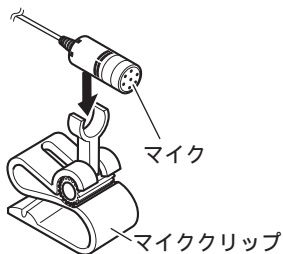
マイク角度の調節のしかた
マイクの角度は、マイククリップの可動部を前後に動かして調節します。



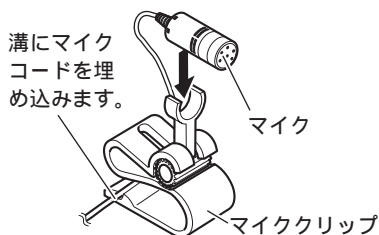
サンバイザーにはさんで取り付ける場合

ステアリングポストに取り付ける場合

1 マイククリップにマイクを取り付ける

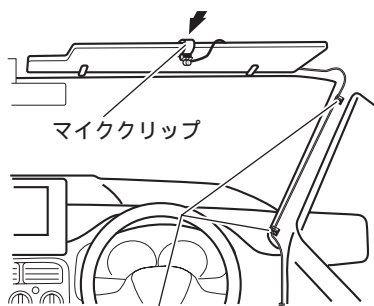


1 マイククリップにマイクを取り付ける



2 サンバイザーにマイククリップを取り付ける

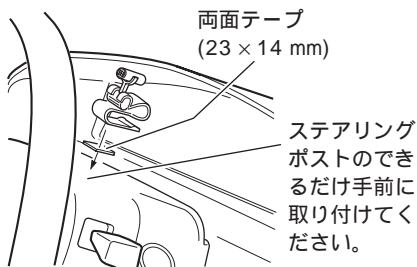
サンバイザーを上げた状態で取り付けます。サンバイザーを下げると、正しく音声認識されません。



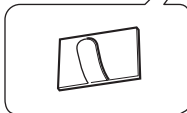
クランパー×5
クランパーで要所を固定しながら、マイクコードを引き回します。



2 ステアリングポストにマイククリップを取り付ける

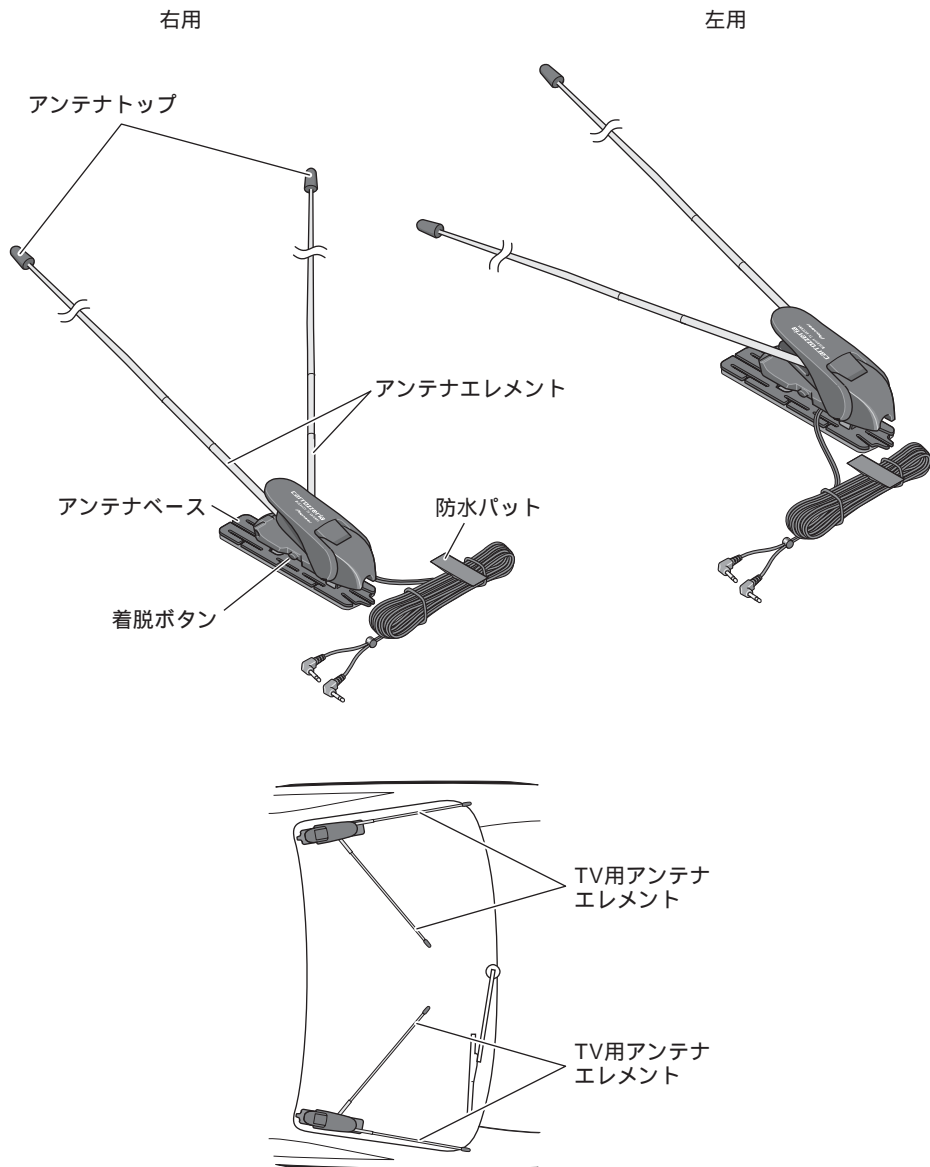


クランパー×5
クランパーで要所を固定しながら、運転操作に支障がないようにマイクコードを引き回します。



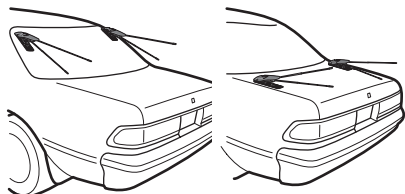
TVアンテナの取り付け

各部のなまえ

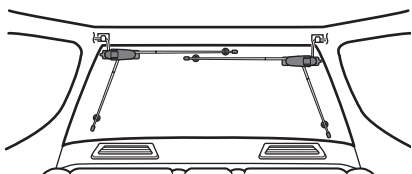


取り付け場所について

アンテナを車室外に取り付けるときは、リアガラスまたはトランクリッドに粘着テープで貼り付けます。



アンテナを車室内に取り付けるときは、リアガラスに粘着テープで貼り付けます。



ガラスアンテナや熱線の上には絶対に取り付けしないでください。

アンテナのエレメントが車幅からはみ出ない場所、また、車の後端より後にはみ出ない場所に取り付けてください。なお、1ボックスカーや2ボックスカーの車室外のリアガラスには、絶対に貼り付けしないでください。

1ボックスカー 2ボックスカー



取り付け上のご注意

アンテナは確実に貼り付け、固定してください。確実に固定しないと、走行中に外れたりする危険性があります。

ガラス面に取り付けるときは、必ず付属のクリーナー剤で、貼り付ける場所の湿気、ホコリ、汚れ、油などを取り除き、乾いたあとにきれいな布でふき取ってください。湿気、油などがあると、接着力が弱くなり、はがれやすくなります。

車のボディに取り付けるときは、塗装保護シートを必ず使用してください。使用しないと車のボディの塗装をはがす原因となることがあります。

確実に貼り付けるため、取り付けは天気の良い日中に行ってください。雨や霧の日など湿気の多いときに取り付けると、接着力が弱くなり、はがれやすくなります。

気温が低いときにガラス面に取り付けるときは、接着力の低下を防ぐため、粘着テープの接着面と取り付け場所を、車内ヒーターやリアデフォグスイッチをONにして暖めておいてください。(20 以上)

リアガラスアンテナ車の場合は、トランクリッドに取り付けてください。(リアガラスに取り付けた場合、ラジオ放送に雑音が入る場合があります。)

粘着テープの接着面は指で触れたり、貼り直したりしないでください。接着力が弱くなり、はがれやすくなります。

取り付け後、24時間以内は絶対に水気(水、雨、霧、雪など)に当てないでください。また、高速走行など、アンテナに無理な力が加わるようなことはしないでください。

TVアンテナの取り付け

つづき

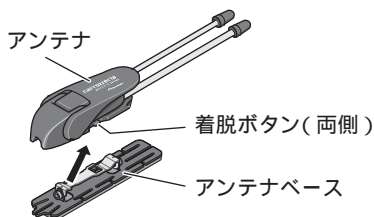
リアガラスに取り付ける場合

トランクを開けたときに、トランクがアンテナのエレメントに当たらない位置(できるだけ高い位置)に取り付けてください。

リアワイパーの可動範囲を確認し、リアワイパーの可動範囲内には絶対に取り付けないでください。

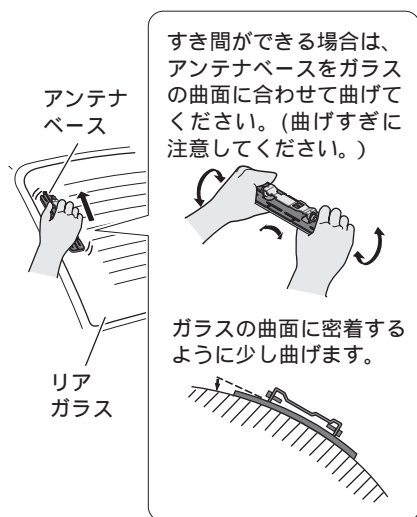
1 アンテナを外す

着脱ボタンを押し、アンテナをアンテナベースから取り外します。(P.35ページ)



2 アンテナを貼り付ける位置を決める

アンテナベースを裏側の保護シートをはがさずにガラス面に当て、アンテナベースとガラス面との間にできるだけすき間のできない位置をさがします。



3 ガラスクリーナー剤で、汚れ、油などを取り除く

- ① 付属のガラスクリーナー剤を、付属のクロスに付け、少し力を入れて拭きます。
- ② クリーナー剤が白く乾いたら、水で洗い流します。
- ③ きれいな乾いた布でから拭きし、水分を完全に取り除きます。

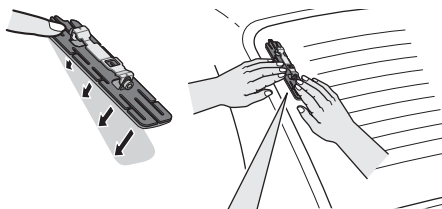


4 気温が低いときはリアガラスを暖める

接着力の低下を防ぐために、車内ヒーターやリアデフォグスイッチをONにして、リアガラスを20℃以上に暖めます。

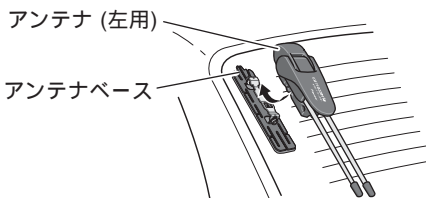
5 アンテナベースをリアガラスに貼り付ける

裏面の保護シートをはがし、先端から徐々に貼り付けます。



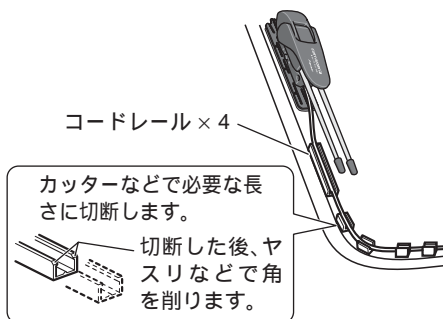
リアガラスに密着するように、指で強く押しつけてください。(貼り付けた後、空気が入っていないか車内から確認し、空気が入っていたらさらに強く押しつけてください。)

6 アンテナを取り付ける (※ 35ページ)



7 アンテナコードを固定する

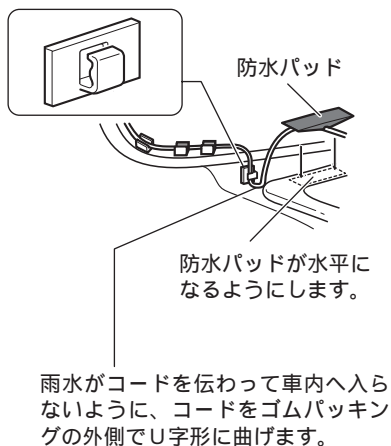
付属のコードレールをリアガラスに貼り付け、コードを固定します。



8 アンテナコードを車内に引き込む

付属のクランパーでコードを固定します。

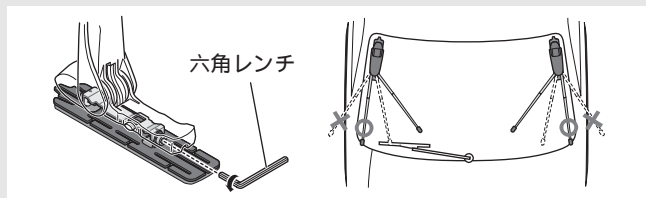
クランパー × 6
クランパーで要所を固定しながら、
アンテナコードを引き回します。



取り付けかた

アンテナの取り付け角度の調節のしかた

アンテナエレメントをのぼしたときに、エレメントが車幅からはみ出る場合は、アンテナベースの前後2本の六角穴付きネジをゆるめて、車幅からはみ出ないように取り付け角度を調節してください。



ゆるめたネジは、調節後しっかりと締め直してください。

TVアンテナの取り付け

つづき

トランクリッド (車室外) に取り付ける場合

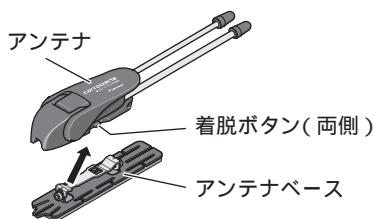
TVアンテナが脱落する危険があるので、フッ素樹脂加工および再塗装された車のボディには貼れません。

トランクを開けたときに、アンテナのエレメントがリアガラスなどに当たらない位置に取り付けてください。

1 アンテナを外す

着脱ボタンを押し、アンテナをアンテナベースから取り外します。

(P.35ページ)



2 汚れ、油などを取り除く

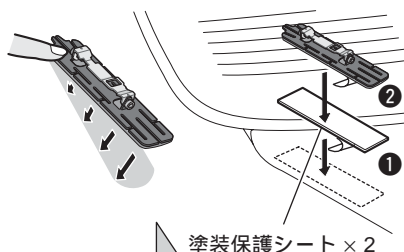
アンテナを貼り付ける場所の湿気、ホコリ、汚れ、油などを取り除いてください。



付属のガラスクリーナー剤は、塗装をはがすことがありますので車のボディには使用しないでください。

3 アンテナベースをトランクリッドに貼り付ける

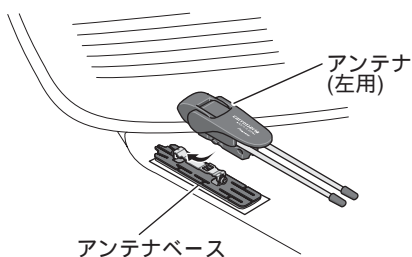
- 1 塗装保護シートをトランクリッドに貼り付けます。
- 2 塗装保護シートにアンテナベースを貼り付けます。



トランクリッドに密着するように、指で強く押しつけてください。

塗装保護シートを必ず使用してください。使用しないと車のボディの塗装をはがす原因となることがあります。

4 アンテナを取り付ける (P.35ページ)

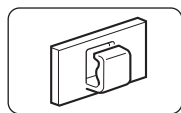
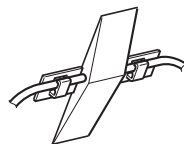


5 アンテナコードを 車内に引き込む

付属のクランパーで防水パッドやコードを固定します。

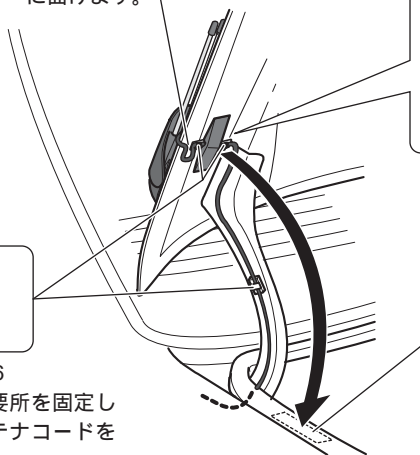
雨水がコードを伝わって車内へ入らないように、コードをゴムパッキングの外側でU字形に曲げます。

防水パッド
防水パッドの前後をクランパーで固定します。



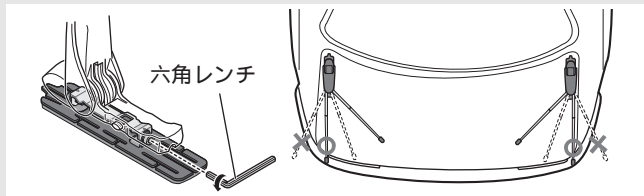
クランパー × 6
クランパーで要所を固定しながら、アンテナコードを引き回します。

トランクを閉めたとき、ゴムパッキングの上に防水パッドが水平に当たるようにします。



アンテナの取り付け角度の調節のしかた

アンテナエレメントをのぼしたときに、エレメントが車幅からはみ出る場合は、アンテナベースの前後2本の六角穴付きネジをゆるめて、車幅からはみ出ないように取り付け角度を調節してください。



ゆるめたネジは、調節後しっかりと締め直してください。

TVアンテナの取り付け

つづき

車室内に取り付ける場合

⚠️ 必ずお守りください

エレメントの先端は、必ず付属のホルダーで固定してください。外れた状態でご使用になると、アンテナが脱落したり、エレメントの先端でケガをする場合があります。

設置後は、幼児のいたずらにご注意ください。思わぬケガの原因となる場合があります。

電波の強い地域(首都圏中心部)ではTVアンテナを車室内に取り付けられる場合があります。電波の弱い地域では車室外に取り付けてください。

車室内に取り付けた場合、車室外に取り付けた場合と比較してテレビの映りが悪くなります。テレビの映りが悪い場合はアンテナを車室外に取り付けてください。

TVアンテナの受信状態をできるだけ良くするために、下図のようにリア(リアハッチ)ガラスにTVアンテナを下向きに取り付けることをおすすめします。また、できるだけエレメントをのぼして取り付けてください。

断熱ガラスを使用した車および熱線遮断フィルムを使用した車では、その一部に電波を通しにくい種類のものがあり、受信できないことがあります。お車のガラス、フィルムの種類をお確かめください。

熱線の上には貼り付けしないでください。取り外した際に熱線が切れる場合があります。

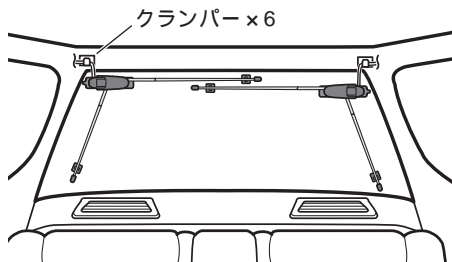
フロントガラスや運転の妨げになるガラスへ取り付けしないでください。

車のガラスの大きさや角度により取り付けができない場合があります。アンテナを取り付ける前に確認してください。

取り付けの際は、ガラスの端からアンテナエレメントまでの間隔を20 mm以上あけてください。ガラスの端に近づけすぎると、テレビの映りが悪くなる場合があります。

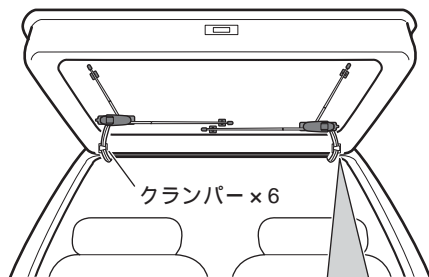
車のラジエーターファンのモーターや、ヒーターのモーターなどからノイズが飛び込み、映像が影響を受ける場合があります。

例1：リアガラスへの取り付け



アンテナをできるだけ高い位置に取り付けると、受信感が良くなります。

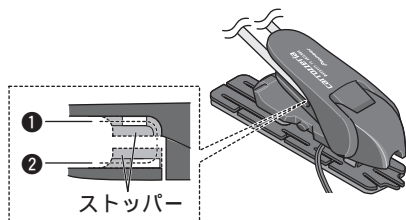
例2：リアハッチガラスへの取り付け



ハッチの開閉の際に、ケーブルが引っ張られたりじゃまにならないように、クランパーを使用して要所を固定してください。

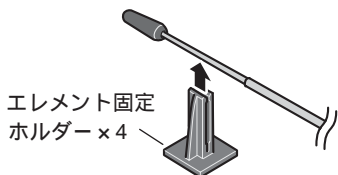
1 ストッパーを切り取る

ニッパーなどで2ヶ所(①、②)切断し、ストッパーを切り取ります。



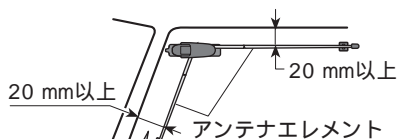
2 エレメント固定ホルダーをアンテナに取り付ける

各エレメントの先端部にエレメント固定ホルダーを取り付けます。



3 アンテナを貼り付ける位置を決める

アンテナベースとエレメント固定ホルダー裏側の保護シートをはがさずにガラス面に当て、取り付ける位置を決めます。



ガラスの端からアンテナエレメントまでの間隔を20 mm以上あけてください。ガラスの端に近づきすぎると、性能を十分に発揮できない場合があります。

4 ガラスクリーナー剤で、汚れ、油などを取り除く

- ① 付属のガラスクリーナー剤を、付属のクロスに付け、少し力を入れて拭きます。
- ② クリーナー剤が白く乾いたら、きれいなぬれた布でクリーナー剤を良くふき取ります。
- ③ きれいな乾いた布でから拭きし、水分を完全に取り除きます。

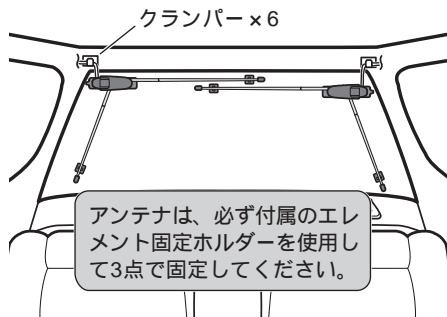


5 気温が低いときはリアガラスを暖める

接着力の低下を防ぐために、車内ヒーターやリアデフォグスイッチをONにして、リアガラスを20℃以上暖めます。

6 アンテナを取り付ける

アンテナベースとエレメント固定ホルダー裏面の保護シートをはがし、アンテナを固定します。次に付属のクランパーを使用して、アンテナケーブルを固定します。(前ページ)

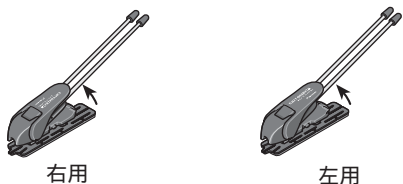


TVアンテナの取り付け

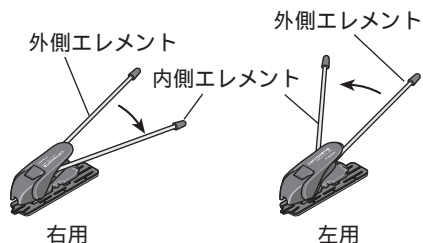
つづき

アンテナの使いかた

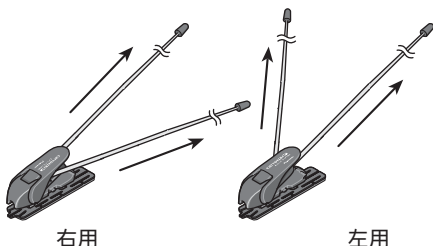
1 アンテナを 起こす



2 内側エレメントを 横にずらす

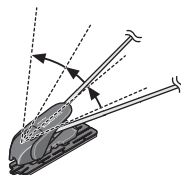


3 アンテナエレメントを いっぱいのにぼす



4 アンテナ角度を 調節する

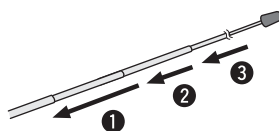
アンテナの角度は、4段階に設定できます。受信感度の良い角度に調節してください。



水平よりやや上向きに調節してください。

アンテナエレメントを収納 する際のご注意

エレメントの太い部分から順に収納してください。先端は細くなっていますので、ていねいに扱ってください。

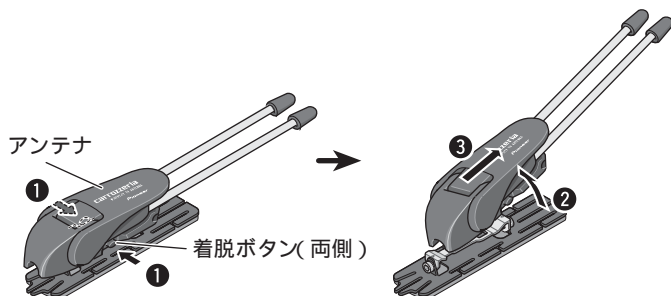


アンテナの着脱のしかた

自動洗車機で洗車するときや、長時間駐車する場合は、アンテナを取り外し、トランク内に収納してください。

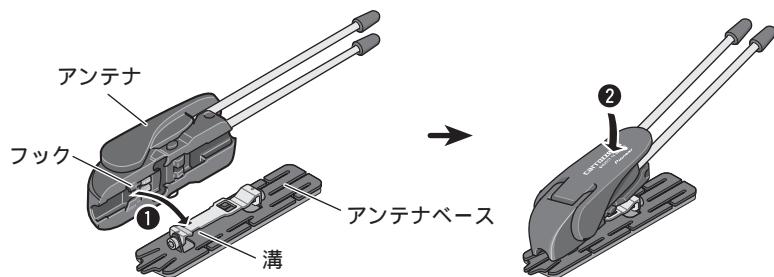
アンテナの外しかた

- 1 着脱ボタン(両側)を押しながら、
- 2 アンテナの後部を少し持ち上げ、
- 3 矢印の方向に引き抜きます。



アンテナの取り付けかた

- 1 アンテナベースの前側の溝に、アンテナの前側のフックを挿入します。
- 2 アンテナの後部を矢印方向に押し、ロックさせます。(“カチッ”と音がすることを確認してください。)



取り
付け
かた

アンテナの取り扱い上のご注意

アンテナおよびアンテナコードは、ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品で拭かないでください。表面が傷されることがあります。

エレメントにゴミや汚れが付着し、スムーズに伸縮しなくなった場合は、ねり状ワックスなどでエレメントの金属部分をみがいでください。

アンテナのエレメントにアクセサリーなどの飾りを付けしないでください。無理な力がかかると、エレメントが折れ曲がったり、アンテナが脱落する恐れがあります。

接続の確認を行う

接続・取り付けが終わったら、本機を動作させ、はじめに接続の確認を行ってください。

1 車のエンジンを かける



2 次の画面が表示されたら 確認 にタッチする



注： **店頭展示** にはタッチしないでください。
タッチしてしまった場合は、一度車のキーを抜いてからエンジンをかけ直してください。

この画面は、初期学習 (☞41ページ) が完了していないときにエンジンをかけると表示されます。

3 接続の確認を 行う

(☞次ページ)

4 接続確認が終わったら、 〔現在地〕 ボタンを押す

(続いて入力設定を行います。☞38ページ)

接続を確認する

接続状態画面

- 1 地図画面で[メニュー]ボタンを押し、**ハードウェア情報**
接続状態の順にタッチする。
- 2 接続状態画面が表示されます。各項目の接続確認
をしてください。



接続状態画面の見かた

車速パルス：車速信号入力（ピンクリード線）の接続状態を確認できます。正しく接続されていれば、車を走行させると“ピッ”と発信音がして、数字とバーが表示されます。数字とバーは本機が測定したパルス数をあらわしています。“ピッ”音とパルス数は速度によって変化します。車速パルスの確認は、低速（時速5 km程度）で行ってください。

GPSアンテナ：GPSアンテナの接続状態を確認できます。正しく接続されていれば[OK]が、未接続の場合には[NG]が表示されます。

その右側に表示されているアンテナのイラストはGPSアンテナの受信状態を確認できます。電波の受信しやすい見晴らしの良い場所で2本以上バーが表示されていれば良好です。バーが1本以下の場合、GPSアンテナの位置を変えて2本以上バーが表示される位置に取り付けてください。GPSアンテナの取り付け上のご注意（P20ページ）を参照して、取り付け位置を確認してください。

取り付け位置：ナビゲーション本体の取り付け状態を確認できます。停車時に[NG（振動）]が表示された場合は、測位の精度が悪くなります。車の振動が少ない位置にしっかりと取り付け、停車時に[OK]が表示されるのを確認してください。また[NG（取付け角）]が表示された場合は、ナビゲーション本体の取り付け角度が許容範囲外となります。取り付け角度（P18ページ）を変更し、停車時に[OK]が表示されるのを確認してください。

パーキングブレーキ：パーキングブレーキスイッチ（若草色リード線）の接続状態を確認できます。ブレーキペダルを踏んで、パーキングブレーキをかけ直してください。パーキングブレーキを解除すると[OFF]、かけ直すと[ON]が表示されます。

電源電圧：車のバッテリーから本機に供給されている電源電圧が表示されます。エンジンアイドリング時に11～15 Vの範囲にないときは、電源コードの接続状態を再度確認してください。また、表示誤差（±0.5 V程度）があるため、この表示は参考値です。

イルミネーション：イルミ電源（橙/白リード線）の接続状態を確認できます。車のライトを点灯させてください。ライトを点灯すると[ON]、消すと[OFF]が表示されます。

ビーコンユニット：VICS用ビーコンユニット「例：ND-B5」（別売）の接続状態を確認できます。正しく接続されていれば[OK]、未接続の場合には[NG]が表示されます。

ETC：アンテナ分離型ETCユニット「例：ND-ETC3」（別売）の接続状態を確認できます。正しく接続されていれば[OK]、未接続の場合には[NG]が表示されます。

バック信号：バック信号入力（紫/白リード線）の接続状態を確認できます。パーキングブレーキをかけたブレーキペダルを踏んでから、シフトレバーをR（リバース）の位置からR（リバース）以外の位置にすると[HIGH]と[LOW]の表示が入れ替わります。

この接続は、車の前進/後退を判断するためのものです。バックランプのリード線の「シフトレバーをリバース位置にしたときに電圧が変化するリード線」に接続してください。

接続しないと前進後退を正しく検知できないことがあるため、自車位置がずれる場合があります。

バックカメラを利用する場合は必ず接続してください。接続しないとバックカメラ映像に切り換わりません。

画面の表示が記載されているようにならなかった場合は、正しく接続されていません。もう一度、接続に間違いがないか目で見て確認してください。

入出力の設定を行う

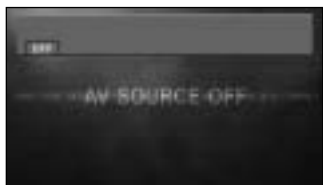
5.1ch DSPユニット非接続時

本機に5.1ch DSPユニット(☞15ページ)を接続していないときは、こちらの手順でそれぞれの項目の入出力設定を行います。

- 1** 地図画面で、
〔NAVI/AV〕ボタンを押す



- 2** 〔SRC〕ボタンを
押す。



「M.S.V.」、「TV1」、「FM1」などのAVソースをONにします。

- 3** AV設定に
タッチする



- 4** 入出力設定に
タッチする



- 5** 該当する項目の
ONまたはOFFにタッチする



- 6** 設定終了に
タッチする



- 7** 〔SRC〕ボタンを
2秒以上押す。

オーディオソースがOFFになります。
地図画面に戻すには、〔現在地〕ボタンを押します。

メモ

「VTR入力」をONにしたときは、手順6の操作後に〔SRC〕ボタンを数回押し、VTRの映像と音声に切り替わる事を確認してください。

「バックカメラ入力」をONにしたときは、初期学習(☞41ページ)が完了したあとに、シフトレバーをR(リバース)に入れて、バックカメラの映像に切り替わる事を確認してください。初期学習が完了していないと、バックカメラの映像に切り替わりません。

入出力の設定を行う (5.1ch DSPユニット接続時)

5.1ch DSPユニット接続時

本機に5.1ch DSPユニット(☞15ページ)を接続しているとき(本機のデジタル出力端子に別売の光デジタル端子変換コネクタを接続しているとき)は、こちらの手順でそれぞれの項目の入出力設定を

1 地図画面で、
〔NAVI/AV〕ボタンを押す



4 設定終了に
タッチする



2 入出力設定に
タッチする



この画面で、左上にOFF と表示されていない場合は、〔SRC〕ボタンを2秒以上押して、AVソースをOFFにしてください。

3 該当する項目の
ON または OFF にタッチする



〔5.1ch DSPユニット〕のON または OFF にタッチしたときは、注意メッセージが表示されます。内容を確認してから、設定してよろしければ はい にタッチしてください。

地図画面に戻すには、〔現在地〕ボタンを押します。

メモ

〔5.1ch DSPユニット〕をON に設定すると、操作音やガイド音声は本機に接続したガイド音声用スピーカーから出力されるようになります。また、AVソースの音声は、5.1ch DSPユニットから出力されるようになります。5.1ch DSPユニットの使い方は、5.1ch DSPユニットに付属の説明書をご覧ください。

「VTR入力」をONにしたときは、手順4の操作後に〔SRC〕ボタンを数回押し、VTRの映像と音声に切り替わる事を確認してください。

「バックカメラ入力」をONにしたときは、初期学習(☞41ページ)が完了したあとに、シフトレバーをR(リバース)に入れて、バックカメラの映像に切り替わる事を確認してください。初期学習が完了していないと、バックカメラの映像に切り替わりません。

接続・取り付けが終わったら

オートアンテナの動作確認を行う

本機をオートアンテナ車に取り付けた場合は、オートアンテナの動作確認を行ってください。本機をガラスアンテナ車など、アンテナブースター付き車に取り付けた場合は、常にオートアンテナをONに設定しておいてください。（出荷時はONに設定されています）

オートアンテナがOFFに設定されていると、AM/FMラジオやVICS/FM多重放送の受信ができなくなります。確認が終了したら必ずONに設定しておいてください。

1

〔T〕ボタンを
長く押す。



ボタンを押すごとに、オートアンテナのON/OFFが切り替わります。

オートアンテナ：ON



オートアンテナ車：アンテナが上がります。
ブースター付き車：ブースターの電源が入ります。
常にONにしておいてください。

オートアンテナ：OFF



オートアンテナ車：アンテナが下がります。
ブースター付き車：ブースターの電源が切れます。
OFFは選ばないでください。

記載されているような動作をしなかった場合は、オートアンテナ（青リード線）が正しく接続されていません。もう一度、接続に間違いがないか確認してください。

センサー学習のエラーメッセージ

接続確認と各種設定を完了後、走行を開始すると本機は自動的に3Dハイブリッドセンサーの初期学習を行います。

その際、つぎのようなエラーメッセージが表示されたときは、エラーの原因を取り除いてから、**確認** にタッチして初期学習をやり直してください。

< 停車中のエラーメッセージ >

[振動を検知しました。本体の取付け状態を変更してください。]

ナビゲーション本体に振動が伝わらないよう、本体の取付方法や取付位置を変更してください。

< 走行開始後のエラーメッセージ >

[車速パルスが接続されていません。簡易ハイブリッドで動作します。]

ピンクリード線（車速信号入力）の接続を確認してください。正しく接続すると、3Dハイブリッドで初期学習をやり直します。

[本体の向きが間違っています。取付けを確認してください。]

ナビゲーション本体の取付方向が間違っています。正しい向きに変更してください。

[車速パルス信号が異常です。接続を確認してください。]

ピンクリード線（車速信号入力）の接続先を確認してください。

< その他のエラーメッセージ >

[内蔵のセンサが異常です。販売店、またはサービスステーションに御相談ください。]

内蔵のセンサの故障が考えられます。販売店またはサービスステーションにご相談ください。

[ハードウェアに異常が発生し、測位不能になりました。販売店またはサービスステーションに御相談ください。]

ナビゲーション本体の故障、劣化等が考えられます。販売店またはサービスステーションにご相談ください。

[GPSアンテナが接続されていません。接続を確認してください。]

[GPSアンテナが異常です。販売店またはサービスステーションに御相談ください。]

GPSアンテナの接続を確認してください。正しく接続されている場合は、断線・故障・劣化等が考えられます。販売店またはサービスステーションにご相談ください。

[車速信号線が外れました。接続を確認してください。]

ピンクリード線（車速信号入力）の接続を確認してください。

[本体の取付け角度が許容範囲外です。取付角度を確認してください。]

取付け角度が間違っていないか確認してください。取付け角度が正しい場合は、内蔵のセンサの故障が考えられます。販売店またはサービスステーションにご相談ください。

[本体取付け位置の変化を検出しました。センサの再学習を開始しますか？]

本体の取付け位置の変化を自動で検出した事をお知らせするメッセージです。



